

中 部 N O W

公益財団法人オイスカ 愛知県支部・中部日本研修センター会報

発行:(公財)オイスカ中部日本研修センター

〒470-0328 豊田市勘八町勘八27-56

TEL 0565-42-1101 FAX 0565-42-1103

E-mail: chubutc@oisca.org http://www.oisca.org/

令和5年10月号
ホームページ版

農業実習生東京研修旅行

2年目の農業研修生、フィジーのニコさんとミリさんが東京本部を起点として8月28日~31日の4日間、研修旅行へ行ってきました。

1日目は鎌倉の大仏と長谷寺を訪れ、オイスカ東京本部では自国の活動報告を行いました。

2日目はオイスカ首都圏支部の案内で豊洲市場を見学し、都庁の展望台、新宿調理師専門学校の見学、明治神宮の森作りについて教えて頂きました。

3日目は埼玉県三芳町にある世界農業遺産、三富新田で行われている伝統農法を学びました。

最終日は静岡県登呂遺跡で日本の稲作の歴史について勉強しました。

日本の先端技術や歴史を学び、充実した研修になりました。ご支援ご協力を頂いた皆様、ありがとうございました。



東京都庁見学



豊洲市場見学



伝統農法を学びました
筑田 明生(筆)



10月14日のボランテアはサツマ芋の収穫です。焼き芋の試食もありますので、参加ご希望の方はセンターまでお問い合わせ下さい。

筑田 明生(筆)



農業ボランテア
ジャガイモ苗植え付け

9月9日(土)朝「時からオイスカ農業ボランテアの皆さんが100kgのジャガイモを植え付けて下さいました。足元の悪い中、海外研修生と協力して作業を行いました。

作業後は畑で朝食をとり、新米の試食もして頂きました。

ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。

バングラデシュ OB 会会長 & 事務局長 / 感謝の中部地区訪問

9月23～27日の5日間バングラデシュ OB 会会長と事務局長がセンターに来所されました。今回の来所の目的は、現在ある自分たちを育ててくれた中部センターや研修先、ホームステイ先、日本語の先生などに感謝の意を伝える事です。

また、現在のオイスカ・バングラデシュの活動拠点となる研修センターは、西尾市民地区の会員さんの協力により、10haの土地に2階建ての研修センター建設の資金の提供を受け、会員さん自らも現地に赴き建設に携わり、1981年の開所にも大勢の方々が参加され、40年余り後の現在の活動にも繋がっております。

当時、建設委員長として奔走され、多額の資金を集められた梶川浩平氏(ドミー元会長)、現地で建設の采配を取られた石川昭英氏(石川農機元社長)の霊前に手を合わせ、現在の礎を築かれたことへの感謝を、OB 会代表として、故人に語りかけることも目的の一つでした。

長年の念願も叶い、懐かしい研修センターの雰囲気にも触れ、お世話になった多くの人との語らいも出来たこと、感謝しております。小杉 辰男(筆)

1974:西尾市センターにバングラから研修生1期4名入所帰国後、地元ラッシャイ県に150名の農業私塾開設

1977:帰国調査の為、梶川氏等16名、バ国訪問。OB・シェイク氏等、研修センター建設要望

1981:バ・男子研修センター開所式、梶川晃平氏等48名参加

1992:バ国、チョウドリー氏の呼びかけに「600ha・緑の防波堤」オイスカ・マングローブ植林開始

2010:西尾推協、MIC、植林活動支援開始。現在(23年)まで、約2千ha、8百本を植林。

住民の生活と地球環境を守る活動を継続中



CFP親善大使センター訪問

9月20日、タイのCFP親善大使の子供達がセンターに来所してくださいました。

親善大使の子供達は約1週間センターを拠点として愛知県の小学校を交流訪問してタイでの植林活動についての発表を行い、またみよし市長と面会し、タイと日本の交流を深めました。小学校の交流会では、親善大使が発表の後タイの歌と踊りを披露し、日本の小学生達は楽しそうに見学していました。

9歳から12歳の子供が親元を離れ異国に行き、さらに多くの小学生達の前で発表するという事はとてもたいへんな事で頭が下がる思いです。タイの子供達もセンターに来た初日は緊張して表情が硬く感じましたが、研修生達や日本のボランティア会員の皆様との交流を重ねていき表情が柔らかく、子供らしい表情を見せてくれるようになりました。改めて感謝申し上げます。センターとしても他国の子供達と日本の交流に少しでも力になれるよう努力していきたいと思っております。

松岡 篤彦(筆)